

ごあいさつ



高麗川駅は、昭和8年4月15日開業以来93年の年月を重ねた歴史ある駅です。

このたび、高麗川駅を東西に結ぶ自由通路、新駅舎及び東口の工事が、平成元年の基本協定締結から、7年の歳月を費やし令和8年3月に完成する運びとなりました。

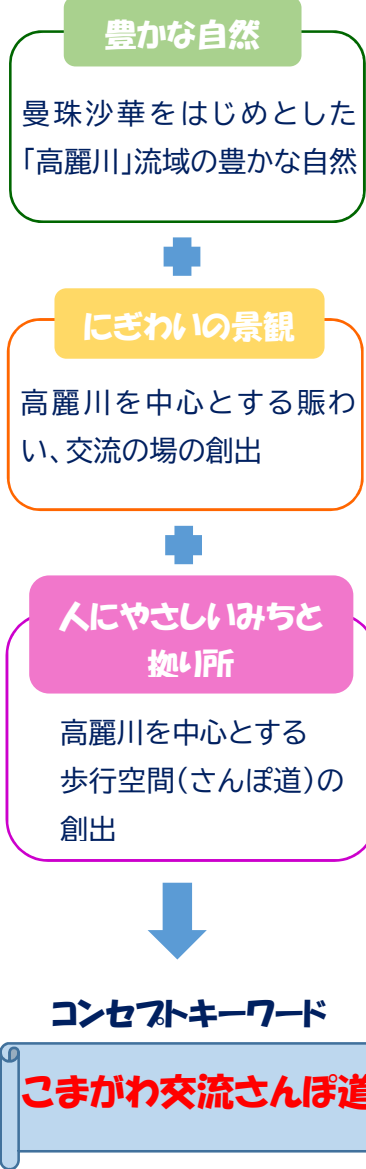
これまでは、駅への利用は西口のみであったため、駅東側周辺の市民の皆様には、駅への交通にご不便をおかけしましたが、自由通路の開通により、格段に利便性が向上します。また、駅西口周辺の市民の皆様は、指定緊急避難場所に指定されている生涯学習センターへのアクセスが短縮され、災害時の避難も容易となります。更には、新しい駅の施設におきましてはバリアフリーに対応したエレベーターや公衆トイレを新設し、快適な都市環境を創出しました。なお、自由通路のガラスデザインは、市民の皆様にご投票いただき上位2種の、日高市を象徴する曼珠沙華、高麗川とかわせみをデザインに採用しました。自由通路及び新駅舎の完成により、新たなまちびらきが始まり、市民の皆様が暮らしに満足感を感じられるランドマークとして、100年先まで継承されることを願っています。

結びに、この整備事業にあたり、ご協力いただきました関係各位の皆様から感謝申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

令和8年3月

日高市長 谷ヶ崎 照雄

デザイン



事業の目的

JR高麗川駅は市の玄関口に位置し、昭和8年4月に開業し93年の歴史ある駅です。東西どちらのエリアも同程度の利用が見込まれる立地条件ですが、駅を利用するためには西口のみという状況でした。

そのため、高麗川駅に東西を結ぶ自由通路と併せて駅東口を開設し、駅施設及び駅周辺の機能性の強化を図り、駅利用者や市街地としての利便性向上、さらに駅前広場、周辺道路の整備を推進し、駅を中心に都市機能を集約したコンパクトシティを形成することにより、賑わい創出を図ることをコンセプトとしています。



1968年当時の状況



愛用された旧駅舎

事業の経過

昭和8年 4月	高麗川駅開業
:	
:	
:	
令和元年 12月	整備に関する基本協定締結
令和3年 3月	基本設計完了
令和4年 9月	実施設計完了
令和4年 11月	JR 東日本八王子支社と施行協定締結
令和5年 2月	自由通路及び駅舎整備工事着手
令和6年 12月	新駅舎完成供用開始、旧駅舎取り壊し
令和7年 11月	自由通路西側階段の暫定供用開始
令和8年 3月	高麗川駅自由通路完成

施設の概要

所在地:日高市高麗川一丁目15先(西口)
日高市大字鹿山 330-17 先(東口)

面積:自由通路(市施設) 825.4㎡
駅舎(JR 施設) 548.2㎡

高さ:11.52m(自由通路)、11.33m(駅舎)

自由通路:長さ87.90m ※階段部分を含めた歩行距離
幅員4.0m

構造:鉄骨造2階建て

昇降施設:自由通路エレベーター(貫通2方向型13人乗り)
東西口各1基

公衆便所:西口のみ(男子用、女子用、バリアフリートイレ)

事業費:約33億6千万円 ※当初施行協定額
※都市構造再編支援事業を活用した国庫補助事業

新しい高麗川駅自由通路及び駅舎完成まで



92年の間、たくさんの方々に利用されてきた趣のあるJR高麗川駅の旧駅舎

工事着手



発注者、施行受注事業者による安全祈願祭(令和5年7月)

基礎工事



躯体杭基礎工事(令和5年10月)

鉄骨組立



駅舎、自由通路の主要部分の鉄骨組立工事(令和6年6月)

新駅舎の外観・内装



新駅舎供用開始(令和6年12月)

自由通路の躯体架設



自由通路の主要部材となるトラス梁構造の桁の架設状況(令和7年5月)

西川材の活用



西川材を活用した階段壁面(令和7年11月)